

長期ステロイド使用後の反復するリバウンドを経て IgE 低下と日常生活の安定に至った成人アトピーの経過
(39 歳)

症例 ID : 001-30-YA2 | 記録日 : 2016 年 6 月 30 日

1. 診断・治療前経過

小学校高学年からアトピーが悪化し、大学 2 年頃までステロイド治療を続けました。次第に外用薬が効きにくくなり、改善の見通しを持てない状態で松本医院を受診されました。

治療開始時にステロイドを中止し、リバウンドを伴う経過を理解した上で漢方治療を開始しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	小学校高学年からアトピー症状にステロイドを使用しました。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	小学校高学年から大学 2 年頃まで継続しました。
中止時期	平成 9 年の治療開始時に中止しました。
来院前／後	来院前に長期使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
小学校高学年～大学 2 年	来院前	アトピーが悪化し、ステロイド治療を継続しました。
平成 9 年	治療開始	ステロイドを中止し、漢方治療を開始しました。
開始半年～1 年	症状のピーク	強いかゆみ、皮膚の欠損、浸出液、ひりひりする痛みが続きました。
その後	反復する症状	リバウンドを繰り返しながら治療を継続しました。
開始約 7 年	体調と検査値の変化	突き上げるような発作的なかゆみが軽くなり、IgE 値が低下し始めました。
長期経過	生活変化	IgE 値は低下傾向となり、普通の生活を送れるようになりました。

4. ピーク時期

ピークは、治療開始から半年～1 年頃に、強いかゆみ、皮膚の欠損、浸出液、ひりひりする痛みが一日中続いた時期です。検査値では平成 16 年 11 月に IgE 2,906 IU/mL を示しました。

5. 困りごと

- ・強いかゆみと皮膚の痛みが一日中続きました。
- ・浸出液が続き、どこにいても気を紛らわせにくい状態でした。
- ・長期間にわたり症状の波を繰り返しました。
- ・住環境、花粉、ストレスなどにより症状が変動しました。

6. 検査値・写真・画像 ※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。

(1) IgE 検査値

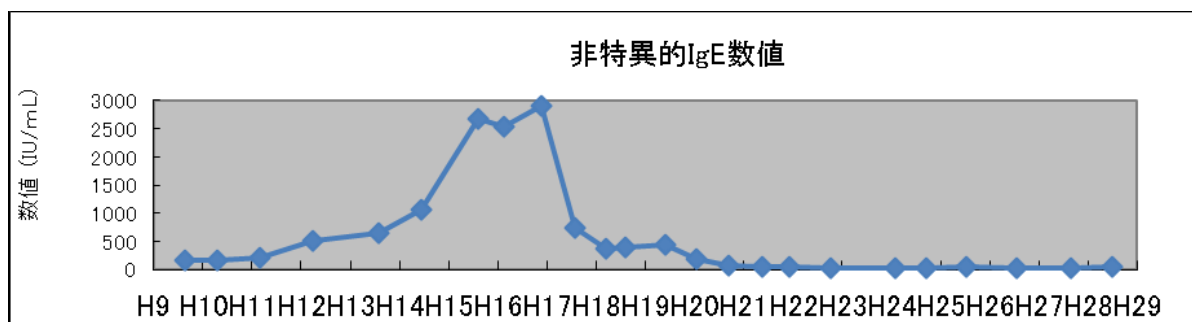
H9.8.20	H10.4.21	H11.3.3	H12.3.31	H13.7.28	H14.6.14	H15.8.12
172	159	207	515	645	1056	2670

H16.2.13	H16.11.16	H17.7.30	H18.3.10	H18.8.8	H19.5.30	H20.1.11
2530	2906	744	363	398	440	179

H20.9.9	H21.5.19	H21.12.1	H22.10.8	H24.2.3	H24.9.14	H25.7.12
84	52	42	27	27	32	55

H26.7.18	H27.8.28	H28.6.24
31	28	44

(2) IgE 推移グラフ



7. 経過のまとめ

治療開始後は半年～1年にわたり強い症状が続き、その後も症状の波を繰り返しました。約7年後から発作的なかゆみが軽くなり、IgE値も低下し始めました。

平成16年11月のIgE 2,906 IU/mLから、平成28年6月には44 IU/mLとなり、普通の生活を送れるようになりました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。